

# 北-田畑エリア座談会（2回目まとめ）

## 1 実施日時・場所

令和6年2月27日（火） 18:00～20:00  
東海村役場 2階 205会議室

## 2 参加者

JA生産部会関係者，ほしいも生産組合関係者，エリアの農業者及び中心的担い手，東海村農業委員，東海村農地利用最適化推進委員，JA職員，東海村職員（事務局）

計21名

### 【座談会の様子】



### 3 内容

#### (1) 情報提供

以下の項目について、資料を用いて情報提供を行った。

##### ①担い手への支援について

東海村で農業を始めませんか？

まずは、お気軽に農業支援センターまでご相談ください！

東海村農業支援センター  
〒321-0222 栃木県東海町東海1-1-1 東海センタービル2階  
TEL: 029-287-7662 FAX: 029-287-7668

##### ②中間管理機構・eMAFFナビについて

【中間管理機構・eMAFF農地ナビについて】

農地中間管理事業のしくみ

農地中間管理機構

農地を探す

eMAFF農地ナビ <https://map.maff.go.jp/>

##### ③水田の活用について

【水田活用について】

水田とは、水を湛えて（または、湛えたりせず、湛えたりせずとも）稲、雑穀、野菜、果樹等を栽培する農地を指す。水田は、稲作農地、水田雑穀農地、水田野菜農地、水田果樹農地、水田休耕地、水田休耕地等からなる。

水田の活用

水田の活用は、稲作農地、水田雑穀農地、水田野菜農地、水田果樹農地、水田休耕地、水田休耕地等からなる。

##### ④有機農業・スマート農業について

有機農業について

有機農業の定義

有機農業とは、化学的に合成された肥料及び農薬を原則使用しない農業生産方法である。

有機農業の推進

有機農業の推進は、有機農業の普及、有機農業の振興、有機農業の発展を目的とする。

スマート農業推進支援事業

スマート農業とは、ICT技術を活用して、農業生産の効率化、省力化、省力化を目的とする。

##### ⑤農研機構の事例について

農研機構

東海環一田エリア  
令和5年度第2回「座談会」  
2024/11/23(火)

第2回座談会に向けて  
～アイデアのヒントを探る～

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
農村工学研究部門  
上級研究員 唐崎 卓也 (KARASAKI Takuya)  
Email: karasa@affrc.go.jp

##### ⑥基盤整備について

基盤整備について

地域全体の一体的な農地整備

農地整備とは、農地の生産性を向上させるための取り組みである。

農地整備の事例

農地整備の事例は、農地整備の推進、農地整備の振興、農地整備の発展を目的とする。

(2) 1回目の座談会の意見を受けた地域計画（案）について  
地域計画（案）についてグループごとに意見交換を行った。

参考様式第5-2号

地域計画(案)

策定年月日	令和7年3月〇日
更新年月日	令和〇年〇月〇日 (第〇回)
目標年度	令和17年度
市町村名 (市町村コード)	東海村 08341
地域名 (地域内農業集落名)	東海村全域 ( 石神村・村松村 )

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況(※R3年度実質化された人・農地プランの数値)

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	896 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	611 ha
② 田の面積	416 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	480 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	207.3 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	150 ha
(備考)	

(2) 地域農業の現状及び課題(案)

<p>・農地所有者及び耕作者の高齢化が進む中、農業後継者の確保及び継続的な農地管理が課題である。</p> <p>・持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、農地の集約・集積に必要な集团的農地を確保していく必要がある。</p> <p>・新規就農者を確保・育成しつつ、地域全体で農地を利用していくための継続的な仕組み構築が必要である。</p> <p>・村内農業者の情報不足や農業関係者同士のネットワークが希薄である。</p> <p>以下、田と畑の課題の特記事項を記載する。</p> <p>【田】</p> <p>・一部の農地の質や形状が悪く、用排水施設の老朽化等の課題に加え、農地の集約も遅れる等、作業効率が悪いことから担い手も減っている。</p> <p>・後継者がいないことから休耕地が増えている地域がある。</p> <p>・田を取り巻く関係者は、特に高齢化が進んでおり、農業用施設の維持管理(地域の共同活動)活動の継続が難しくなっている。</p> <p>・農業用機械の更新にかかる費用的な負担から離農する方もおり、経営所得の安定が課題である。</p> <p>【畑】</p> <p>・畑を耕作する人や後継者はある程度確保されているが、地権者との関係性等も含め、長く土地を賃借し、耕作続けられるかの課題があり、安定的な農業経営への不安を抱えている担い手が多い。</p> <p>・畑を賃したい人、借りたい人の情報が少ないことから、土地の賃借に課題がある。</p> <p>・農業を始める際や拡大する際に技術を教えてくれる人がいない。</p>
--

(3) 地域における農業の将来の在り方(案)

<p>定期的な座談会や意見交換会を実施することや情報共有を図り、地域の関係者や農業者同士のネットワークを強化し、スムーズな農地の貸し借りや集積、集約に繋げていく。 また、農地ナビ (<a href="https://map.maff.go.jp/">https://map.maff.go.jp/</a>)を活用した情報提供を充実させていく。</p> <p>【田】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営所得の安定を目指し、主食用米の他に地域で取り組める作物等【△△△】を導入する。</li> <li>・地域での意見や実情、担い手の意向等がまとまった段階で、持続可能な農業経営が行えるよう汎用性が高い基盤整備や環境整備等を行い、生産効率を高めることで、担い手の確保や耕作放棄地の拡大防止を図る。</li> </ul> <p>【畑】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い農業者や拡大意向のある農業者への農作業研修会の定期的な開催。</li> <li>・耕作規模や作物ごとにエリアを分けることにより、効率的な農地の活用を図る。</li> </ul>
---

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標(案)

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
中間管理機構への貸し付けを進めつつ、担い手への農地の集積・集約化を進めることを基本とし、担い手の農作業に支障がない範囲で農地利用を進める。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	30 %	将来の目標とする集積率	66 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農業委員会と調整し、農地中間管理機構を通じて進める。			

★ 3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置(案)

(1)農用地の集積、集団化の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手を中心に集積・集約化を進める。</li> <li>・現状の経営規模を維持したい担い手がいる地域では、担い手の意向を尊重し、できる範囲で集積・集約化を進める。</li> </ul> <p>&lt;柳沢・宮下-田エリア&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤整備を前提として担い手Aさん、担い手Bさん中心に集積・集約を進める。</li> </ul> <p>&lt;北-田畑エリア&gt;</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○</p>
(2)農地中間管理機構の活用方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地の賃借については、農地中間管理機構を通じて行っていく。</li> </ul> <p>&lt;北-田畑エリア&gt;</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○</p>
(3)基盤整備事業への取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ごとに基盤整備に向けた必要な措置を行っていく。</li> </ul> <p>&lt;柳沢・宮下-田エリア&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤整備事業取組に向けた基礎調査を行う。</li> <li>・基盤整備を検討する。</li> </ul> <p>&lt;北-田畑エリア&gt;</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○</p>
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内外から多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、村及びJA等と連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。</li> <li>・住民の農業体験などを通して、農業に関する理解や知識を深める機会の創設をする。</li> <li>・若い農業者や拡大意向のある農業者への技術支援体制の整備をする。</li> <li>・農地ナビ (<a href="https://map.maff.go.jp/">https://map.maff.go.jp/</a>)を活用した農地情報の提供の充実化を図る。</li> </ul> <p>&lt;北-田畑エリア&gt;</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○</p>
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
<p>&lt;北-田畑エリア&gt;</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○</p>

以下任意記載事項(地域の实情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組内容】  
 <北-田畑エリア>  
 ○○○○○○○○○○○○○○

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	0経営体		0 ha	0 ha		0 ha	0 ha		

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業者名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

※地図は現状図



## <地域計画（案）、目標地図（案）に対する参加者の意見>

### 地域計画（案）について

#### （話し合いからの意見）

- ・大規模農家と駆け出しの農家では事情が違う。
- ・新規就農者への農地の余力は必要。
- ・自身の拠点から近い圃場が耕作しやすい。
- ・小規模農家ほど集約されていると助かる。
- ・地主の意向もあるので、アンケートを取りたい。
- ・アンケートやデータを取りまとめる人が必要。
- ・農地保全が大事。
- ・土の質よりも場所優先。
- ・集積集約に関するマッチングシステムの導入が必要。
- ・農地のトレードを仲介してくれる人がいると良い。
- ・農地トレードの候補リストアップする。
- ・中間管理機構を通す方が楽。
- ・中間管理機構は期待できる情報が得られない、もっと権限があっても良い。
- ・基盤整備する際には畑でも水が使いたい。
- ・井戸水でも足りる規模の農地もある。
- ・基盤整備ができる場所を明らかにしてほしい。
- ・法人化は費用負担が大きく、簡単ではない。
- ・今のままでは担い手が足りない。担い手の確保が重要。
- ・集約化も大切だが、小規模でやっている方々も大切にしなければならない。
- ・労働力の確保が難しい。
- ・ハウス農業は施設の投資が大きく簡単に規模拡大できない。
- ・有機農業は畑が荒れ、周囲からのクレームも多い。
- ・有機農業は値段以上の価値（こだわり）のアピールが必要。
- ・土地の賃借や水利費の補助金が必要。
- ・新しく耕作していく人が入り込める農地の確保体制があっても良い。
- ・基盤整備は大切だが、事前の調査は必須で、基盤整備をしても収益が上がらない農地は農地以外の活用方法も検討しなければならない。
- ・特定の作物をみんなが作ってしまうと、需要と供給のバランスが崩れてしまうので、どのような作物を作っていくのかも考えていく必要がある。

#### （アンケートからの意見）

- ・国が示した課題に何か行動せねばならないのは分かるが、行政に引きずられるだけのように思う。
- ・畑は個人個人の努力で管理されているのが現状であり、システムチックに農地を割り振れるものではないという現実を県、国に突きつける必要もある。
- ・実現できることが理想だが、まだまだ課題は多い。
- ・まずは行動。

## 目標地図（案）について

東海村都市計画図を用い、おおよその耕作者について話し合った。



1 班話し合い

2 班話し合い

※個人情報が含まれているため画像をぼかしています。

### (3) その他

○座談会参加者の現在の耕作状況、今後の耕作意向、後継者の有無等についての簡単なアンケートを行った。

- ・どちらかというと耕作規模を減らしていく・・・5人
- ・50歳代またはその年代より下の方、もしくは、後継者と呼べる人が家族や親族の中にいる・・・5人
- ・このエリアで耕作している・・・16人
- ・1ha以上耕作している・・・9人